

## 1．評価の経緯

宇宙開発委員会は、「宇宙開発に関する重要な研究開発の評価について」(平成15年6月4日 宇宙開発委員会決定)により、宇宙開発を効率的かつ効果的に推進するため、「宇宙開発に関するプロジェクトの評価指針」(平成13年7月 宇宙開発委員会決定。以下「評価指針」という。)等に基づき、平成16年度に実施予定の重要な研究開発について、計画・評価部会において評価を行うこととした。

H-Aロケット輸送能力向上については、計画・評価部会のもとにH-Aロケット輸送能力向上評価小委員会を設けて評価を行い、その報告を受けて、計画・評価部会にて本プロジェクトに関する評価をとりまとめることとした。

(本部会への調査審議付託文書及び本部会及び評価小委員会の開催状況を、参考1及び参考2に示す。)

## 2．評価方法

平成16年度概算要求に向けて、プロジェクトの目標や効果、実施体制等について評価した。

H-Aロケット輸送能力向上は、H-A増強型として開発(実施フェーズ)へ既に移行しているが、その後の環境条件の変化を受けて、宇宙開発事業団(以下、「NASDA」という。)ではプロジェクトの全体像を大きく見直すこととしている。評価指針では、環境条件が大きく変化した場合に、実施フェーズの期間中に中間評価を行うとしている。従って、開発(実施フェーズ)期間中の中間評価として、本プロジェクトの見直し内容と根拠についての妥当性に関する評価を行った。

## 3．審議の進め方

「我が国の宇宙開発利用の目標と方向性」(平成14年6月26日 宇宙開発委員会)及び宇宙開発に関する長期的な計画の審議状況を踏

まえ、宇宙開発の目的として以下を考慮し、種々のプロジェクトの意義・位置付けなどについて評価を行った。

- 安全で安心な社会の構築
- 国民生活の豊かさと質の向上
- 経済社会への貢献
- 知的資産の拡大

併せて、これらの目的を実現する手段として、宇宙開発を支える宇宙輸送系・拠点等に分類されるプロジェクトについても、評価を行った。H-A ロケット輸送能力向上は、宇宙輸送系分野のプロジェクトに分類される。

審議にあたっては、NASA からプロジェクトの内容について説明を受け、その目標や効果、実施体制等について評価を実施した。

#### 4 . 審議の結果等 ( 経緯等 )

H-A ロケット輸送能力向上に関しては、これまで H-A ロケット増強型として開発が行われ、平成 11 年度に、宇宙開発委員会において、平成 14 年度の飛行実証を目標に平成 12 年度からの増強型試験機の開発着手が妥当とされた。

その後、平成 11 年 11 月の H-A ロケット 8 号機の打上げ失敗等を踏まえ、計画が順次見直されてきており、当該見直しについての審議を宇宙開発委員会にて実施してきた。平成 13 年度の審議においては、打上げ目標年度の平成 17 年度への変更を妥当とした。

また、輸送対象として想定された宇宙ステーション補給機(以下、「HTV」という。)については、国際宇宙ステーション(以下、「ISS」という。)計画の状況に応じて、技術実証機の打上げ目標年度の見直しを順次実施する一方で、米国航空宇宙局(以下、「NASA」という。)との調整を受け、搭載貨物量の設定や機体設計が進められてきた。

一方、「我が国の宇宙開発利用の目標と方向性(平成 14 年 6 月宇宙開発委員会決定)」において、「H-A 標準型以上の能力を持